

令和3(2021)年度事業計画書

公益財団法人 日本シルバーボランティアズ

昨年は世界全体を見渡すと、中近東・ヨーロッパ等では必ずしも安定した状態とはいえなかったが、日本では夏のオリンピック開催を控え明るい年になることが期待されていた。

しかし乍ら、誰もが想像し得なかった新型コロナウイルス感染症がパンデミック状態を呈し世界全体を大混乱に陥れ、終息に向かうどころか未だその猛威が私達を脅かしている。

一方、人類の歴史の中ではペストをはじめとする諸ウィルスの感染拡大を数度に亘り克服してきており、今回も新ワクチン・新薬の開発等をベースに全世界が目下この克服に一丸となっている。

このような変化の大きい状況下、当財団としても本来であれば60～70人のボランティアを東南アジア・中国を中心に派遣したいと考えていたが、現時点では年間計画を立てるには余りに不透明・不確定要素が多く、取り敢えずは可能であると考えられる次表人数を以って(暫定の)事業計画としたい。

そして、このコロナ禍の状況推移を睨みながら必要に応じ、期央あるいは然るべき時期に実態に合わせ計画の修正を行う事としたい。

なお、斯かる特殊状況下にはあるが従前同様、会員・関係諸団体の皆様方ともども草の根ボランティア活動による国際貢献に最善を尽くして参りたい。

記

1. 海外派遣計画(公1)

事業内容	令和3年度 (2021年度) 計画	令和2年度 (2020年度) 実績見込	令和元年度 (2019年度) 実績
法人等助成金による 渡航費等支援派遣	22	37	36
中国政府の渡航支援に よる中国派遣	3	0	22
その他の派遣	4	1	5
合計	29	38	63

一般地域派遣

本来なら新年度も、世界的な日本語学習熱を背景に、限られた予算の中でも広範な地域に日本語教師派遣を計画していた筈である。

日本との経済関係の深い東南アジア諸国を中心に、日本文化への憧憬や日本人の勤勉性への尊敬の念から日本語を学ぼうとする遠い南米や中央アジア、すなわちウズベキスタン、パラグアイ、カンボジア、フィリピン、タイ、台湾、ベトナム、ミャンマー等に積極的に派遣を継続していた事であろう。

しかし乍ら、世界を席卷した新型コロナウイルス感染症により総ては一変してしまった。所定の帰国時期になっても、本邦に帰るに帰れず、外地での長期の任務に堪えておられる日本語教師も多く、その方々への生活支援も焦眉の急となってきた。

その反面、このような厳しい状況にも拘わらず、海外での日本語教育に身を投じたいと云う会員教師各位の熱誠を受けて、「朝の来ない夜はない！」を信じつつ、新年度は可能な海外場所へ少人数でも継続派遣が実現できれば、望外の喜びと思う次第である。

コロナ禍の影響は、世界中のありとあらゆる既成概念を変えてしまい、その結果寄付金で成り立つJSVの運営自体にも多大な苦境を与えています。

かかる状況下、新年度は総てが新しい取り組みであり、また未来に向けてどう進んで行けるのかを判断する、今まで経験したことの無い誠に貴重な一年になると存ずる。

中国派遣

JSV創立41年目となる2020年1月、江蘇省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症により、2020年度は中国向け専門家派遣に1件の実績も残せていない。2021年年初現在の感染状況から推測すると、2021年度も派遣の再開は予断を許さない状況である。

2020年度のJSV業務は、北京科学技術交流中心や東京の中国大使館、中国国際人材交流協会、人民日報東京支局、日本技術士会及び会員等とチャット、メール、電話等にて情報交換を行い、取材協力等を行っている。また、科学技術部外国専門家服務司（旧専門家局）が主催する国際人材交流大会にネット上にて展示参加している。

中国側窓口の中国科学技術交流中心より、中国国内では厳しい管理がされてはいるものの、北京市、河北省、遼寧省等で感染者が散発し移動規制がなされている。中国側より2021年の派遣業務の実行は、感染者数が増加している日本の状況も併せ考慮すると、大変困難との見通しが来ている。

JSVとしても派遣が実現する条件として、感染の世界的な沈静化や各国の安全宣言、ワクチンの実施、また本人及び家族の同意が必要となる。

当財団の歴史的活動実績が、民間の草の根交流として中国側に高く評価されてきている。中国科学技術部は元より地方科学技術交流中心・専門家局及びエンドユーザーより、更に高度な技術を求めて、事業継続を希望する声がある。会員の老齢化による減少、退職年齢の引き上げ等による会員獲得の困難がある中、JSVとしては高度な技術を持つ会員獲得等新しい方式を模索し、持続へのトライをしたい。